

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	勝谷紀子	所属	青山学院大学 社会情報学部附置社会情報学 研究センター
研究会等名称	公益社団法人日本心理学会 難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 2 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 5 名 (うち認定心理士 0 名) ※文字通訳者として参加した3名を含む</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本研究会は、「聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分でないことから生じる心理学的問題を考えること」を目的としている。研究会メンバーは、障害児教育、知覚心理学、認知心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、認知心理学などさまざまな領域で難聴の研究をしている研究者、当事者が主なメンバーとなっている。</p> <p>2018 年度は、昨年度に引き続き、メーリングリストを通じて会員同士が議論、情報交換を行い、難聴者のもつ心理学的問題について考えた。研究集会としては、昨年に続き「第 2 回きこえカフェ」と題した難聴当事者の交流会を神奈川県横浜市で 2019 年 3 月 24 日に開催した。</p> <p>具体的には、「聞こえづらさを持つ人びと自身の知恵を共有する」を大きなねらいとし、具体的なテーマとして「コミュニケーションを『研究』する」をかねて実施した。代表者を含む難聴当事者どうしが (1) 普段の聞こえにくさ (どんなふうに聞こえる? どんなふうに聞こえにくい?)、(2) 普段の聞こえやすさ (どんなときに聞こえやすい?)、(3) コミュニケーションでの困りごと経験、について書き出しながら考えていった。</p> <p>その後、書き出した内容を模造紙にまとめたものをお互いに読み合いながら、難聴当事者に具体的な困りごと経験をくわしく説明してもらい、全体共有をおこなった。前回よりは難聴当事者の人数が少なかったがその分参加者ひとりずつから詳しく話を聞くことができた。</p> <p>次年度は、難聴者への心理的な支援のあり方についてひきつづき検討したい。学会でのワークショップやシンポジウムの形式で、難聴者が望む支援を受けるために必要なコミュニケーションのあり方を意見交換していきたいと考えている。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
公益社団法人日本心理学会 難聴者の心理学的問題を考える会				
研究集会開催日： 2019年 3月24 日(日)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	勝谷紀子	青山学院大学	○	○
2	佐野智子	城西国際大学	○	
3	一橋圭子			
4	小松佐知子			
5	鈴木弘子	パソコン文字通訳者会Ubiquitous		
6	里村除子	パソコン文字通訳者会Ubiquitous		
7	石黒泰子	パソコン文字通訳者会Ubiquitous		
注	※リストの3、4の方は研究会外の一般の難聴当事者の方です。お名前のみ当日の参加者名簿に記載いただきました。			

(様式5)

2019年 3 月29 日

日本心理学会研究会 2018 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 難聴者の心理学的問題を考える会

研究会番号 _____

助成金額 ¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2019年3月24日	会場費 (関内ホール)	¥12,000
2019年3月24日	文字通訳費用 (3名派遣)	¥24,520
支出合計		¥36,520